

針ノ木岳	
北	ア

1991年6月1日

メンバー：L岩崎正隆, 西川克之, 岩毅
水野正明

6/1 曇とき晴 いつもそうだが、6月、シーズン最後の山スキーは初夏の風が吹く登山口からスタートする。大沢小屋では夏山開きの準備が始まっていた。ここで、一服して、針ノ木雪渓に降りる。今年は大雪のため、この時期でも、大沢小屋の下まで雪がつながっている。とはいえ、スプーンカットと細かい土がそばかす状に乗った雪は、どうも、シールとの相性が悪いようで、ちょっとシンドイおもいをする。天気はちょっと灰色気味で、雪渓を歩きだして、すぐに、ガスにまかれたりする。針ノ木雪渓は白馬大雪渓にくらべると斜度がきついようだ。斜面が広いため、ゆるいように錯覚して、どうも調子がでない、シンドイと感じて

しまうようだ。

マヤクボ沢出合からマヤクボカールに向かう。雪は山頂までつながっている。私は、このへんから、だいぶへばってくる。あえぎながら、登る。マヤクボカールの底では3人が私を待っている。私は遅れに遅れてバテバテで到着する。青空が見えてくる。雲の切れ間から里が望める。それを見ながら、カールの底でボーッと休んでいたい誘惑にかられる。が、3人は元気一杯!、頂上に向かって出発する。私もただ意地だけで足を動かす。

針ノ木岳頂上左の肩にシーデポして食事にする。まだまだ元気な岩崎さん、西川さんはつば足で山頂を往復した。

下りはまず水野さんがカール壁に豪快なシュプールを描く。続いて、みなさん、おもいおもいのシュプールを描きつつ、アッという間に大沢小屋まで滑りおりてしまう。

(タイム) 扇沢(1420m)6:15—大沢小屋(1675m)7:00, 7:50—マヤクボ沢(2550m)11:00—針ノ木岳左肩(2750m)11:50—針ノ木岳(2820.6m)12:10—針ノ木岳左肩12:45 ~大沢小屋13:30—扇沢14:10 (岩毅記)

